

玉木 雄一郎 (たまき ゆういちろう)

衆議院議員 (香川2区)

- 生年月日 昭和44(1969)年5月1生まれ 57歳 酉年 O型
- 出身地 香川県大川郡寒川町 (現さぬき市)
- 家族 祖母、両親、妻、息子
- 座右の銘 一所懸命 念ずれば花開く
- 趣味 カラオケ、ギター、ピアノ



略 歴

- 昭和44(1969)年 3人兄弟の長男として、香川県大川郡寒川町 (現さぬき市) で生まれる。家は兼業農家で、祖父は大川農協組合長。父も経済連に勤務。中学では野球部に
- 昭和63(1988)年 県立高松高校卒業後、東京大学法学部に入学。大学では陸上部に所属し、十種競技で全日本100傑に入る
- 平成5(1993)年 大蔵省 (現財務省) 入省
- 平成9(1997)年 米国ハーバード大学大学院 (ケネディスクール) 留学。
帰国後、外務省中近東第一課ヨルダン担当として中東和平に尽力。内閣府秘書専門官として3行革大臣に仕えたほか、財務省主計局で三位一体改革を担当
- 平成17(2005)年 投票日1ヶ月前に財務省を退職。第44回衆議院総選挙に香川2区の民主党公認候補として挑戦するも、落選
- 平成21(2009)年 4年間の浪人生活を経て第45回衆院選に再挑戦、選挙区で初当選
- 平成24(2012)年 第46回衆院選で2期目の選挙区当選
- 平成26(2014)年 第47回衆院選で3期目の選挙区当選
- 平成28(2016)年 推薦人20人を集めて民進党代表選に出馬。民進党幹事長代理に就任
- 平成29(2017)年 第48回衆院選で4期目の選挙区当選、希望の党代表に就任
- 平成30(2018)年 (旧)国民民主党結党、共同代表に就任。9月に代表選を経て代表に就任
7月、YouTube「たまきチャンネル」を開設。現在チャンネル登録者約60万人
- 令和2(2020)年 (新)国民民主党設立、12月に代表選を経て代表に就任
- 令和3(2021)年 第49回衆院選で5期目の選挙区当選。党所属議員は8議席から11議席に
- 令和6(2024)年 第50回衆院選で6期目の選挙区当選。党所属議員は7議席から28議席に
- 令和7(2025)年 第27回参院選で党所属議員は改選4議席から17議席に
- 令和8(2026)年 第51回衆院選で7期目の選挙区当選。党所属議員は27議席から28議席に

玉木雄一郎と つながる

 YouTube <https://youtube.com/@tamaki-channel>

 X @tamakiyuichiro

 facebook <https://www.facebook.com/tamakinet55>

 Instagram yuichiro.tamaki

 ホームページ <http://tamakinet.jp/>

国民民主党を 次のステージへ

地域の挑戦が日本を動かす



「対決より解決」で 国民生活を守る。

私が目指すのは、「対決より解決」の原点や、これまで皆さんと一緒に積み上げてきた成果を土台としながらも、「未来先取り政党」としての国民民主党をさらに進化させることです。

私は、自らも変わる覚悟で、この代表選挙に臨みます。

みんなの力を結集し、 政策実現力を高める。

国民民主党はこれまで「対決より解決」の姿勢で、物価高騰に苦しむ国民の手取りを増やす政策などを前に進めてきました。しかし、まだまだ足りません。

これからは、国会議員だけでなく、全国で地域に根ざして活動する地方自治体議員や党员・サポーター、学生部、ボランティアをはじめすべてのの方々の知恵と力を結集できる組織に変えていきます。

頑張る人が報われる 日本へ

政治は、政治家のためにあるものではありません。政治は頑張る人、そして今は頑張れなくても必死に生き抜こうとする人たちのためにあります。

- 国内生産を増やして富の海外流出を防ぎ、国民を豊かにします。
- 「現役世代減税」「子ども減税」で、「インフレ増税」から現役世代を守ります。
- 「法の支配」、ルールを重視する「世界に範たる日本」を目指します。
- ガバナンスを強化し、地域重視のより開かれた政党へと進化します。

政見の全文は「たまき雄一郎オフィシャルサイト」でご覧いただけます。

<https://tamakinet.jp/news/8149/>



2026 国民民主党代表選挙 候補者

玉木雄一郎



たまきみんね

■生年月日：昭和44(1969)年5月1日生まれ・57歳

■出身地：香川県大川郡寒川町（現・さぬき市）

兼業農家の長男として香川県の農村で生まれる。県立高松高校卒業後、東京大学法学部へ進学。陸上部で十種競技に打ち込む。1993年大蔵省（現財務省）入省。留学先の米ハーバード大学大学院で政治学を学ぶ。05年、投票日の1ヶ月前に退職し衆議院に香川2区から挑戦するも落選、4年間の浪人生活を経て09年初当選、現在7期目。

国民民主党を次のステージへ

地域の挑戦が日本を動かす

令和8年8月7日 玉木 雄一郎

■「対決より解決」で国民生活を守る

今回の代表選挙に臨むにあたり、結党時に作った様々な文書を改めて読み返しました。党のタグラインである「つくろう、新しい答え。」のステイトメントに次のような一節がありました。

強い者が間違っているならば、私たちは勇気をもって正していく。
大きな者が見逃しているならば、私たちは信念をもって訴えていく。

そのとき、私たちは、私たちの答えをぶつけていこうと思う。
ただの否定や反対ではなく、議論を前進させ、
よりよい未来へ進むために。

それぞれの現場に足を運び、そこにある本当の声に耳を傾ける。
みんなの声を集め、みんなで答えをつくっていこう。

今日も原点へ、暮らしが動いている場所へ。
声の先にこそ、答えはあるのだから。

ここに、国民民主党の「対決より解決」の原点が記されています。

私が目指すのは、こうした原点や、これまで皆さんと一緒に積み上げてきた成果を土台としながらも、「未来先取り政党」として国民民主党をさらに進化させることです。

私は、自らも変わる覚悟で、この代表選挙に臨みます。

■みんなの力を結集し、政策実現力を高める

国民民主党はこれまで「対決より解決」の姿勢で、経済を伸ばし、物価高騰に苦しむ国民の手取りを増やす政策などを前に進めてきました。しかし、まだまだ足りません。これからは、ただ政策を提案するだけでなく、**政策を主体的に実現できる政党へと進化**しなければなりません。

そのためには、国会議員だけでなく、全国で地域に根ざして活動する地方議員や党员・サポーター、学生部、ボランティアをはじめ党を支えてくれる方々の**知恵と力の結集が不可欠**です。

私一人が党を変えるものではありません。意見を出し合い、力を合わせることで、党は変わります。国民民主党を、政権を担い、日々懸命に働く人たちを支える政策を主体的に実現できる政党へと成長させます。

■頑張る人が報われる日本へ、頑張れない人が救われる日本へ

朝早く家を出て、夜遅く帰ってくる。

懸命に働いても、給与明細を見れば、なんでこんなに引かれてるんだと驚くほど、税金や社会保険料の負担が重くのしかかる。

スーパーでは値札を見比べ、買おうと手に取ったものを、そっと棚に戻す。

子どもの習い事を続けさせたいのに諦めなくてはならない。

親の介護にきちんと向き合いたいのに時間もお金もない。

若い世代は、頑張って就職したのに、真面目に働いても、この先、結婚できるのか、家を持てるのか、子どもを育てられるのか、不安を抱えています。

地方では、仕事や担い手が減っていく現実に向き合いながら、地域を守るために踏ん張っている人たちがいます。

声を上げる余裕さえなく、毎日の仕事や子育て、介護に追われている人。

何とか暮らしを守ろうと、一つ一つの支出を切り詰めている人。

将来に希望を持ちたいのに、目の前の不安で立ち止まっている人。

政治は、政治家のためにあるものではありません。

政治は、こうした懸命に頑張る人、そして、今は頑張れなくても必死に生き抜こうとする人たちのためにあります。

国民民主党は

「真面目に頑張る人が報われる日本、頑張れない人が救われる日本」

を目指します。

私たち大人が、子どもたちに向かって「ここで頑張れば、夢は叶うからね」と、自信を持って語りかけてあげられる、そして「何があっても大丈夫だよ」と寄り添ってあげられる、そんな日本と地域を後世に残していきたいのです。

全国各地を回ると、「国民民主党を知って初めて政治に興味を持つことができました」と語りかけてくれる人がいます。そして、私たち国民民主党の政策を待っていてくれる人がいます。

そんな方々の期待に応え、日本が進む新しい道をつくるため、再び、先頭に立たせてください。皆さんのご支援、よろしくお願いします。

■国内生産を増やして富の海外流出を防ぎ、国民と地方を豊かにする

日本は、エネルギー、食料、医薬品、半導体、デジタルサービス等を過度に海外に依存しているため、毎年約50兆円の国富が海外に流出しています。このうち3割を国内生産へ置き換えられれば、年間約15兆円の国内需要・所得増加につながります。**国内生産を増やして過度な海外依存を改め、国富の海外流出を防止することで国民を豊かにし、地方に産業と雇用を呼び戻します。**

■「現役世代減税」「子ども減税」で、「インフレ増税」から現役世代を守る

現役世代が苦しいのは、現行の税制がインフレを前提にしておらず、インフレすなわち物価上昇や賃上げが、事実上の「増税」になっているためです。そこで、インフレに連動して税負担を自動調整できる仕組みを導入し、**「インフレ増税」から国民生活を守ります。**

- ①インフレに連動して所得税・住民税の控除額を引き上げる制度の導入（「**現役世代減税**」）
- ②16歳未満の子どもの数に応じて適用される年少扶養控除の復活（「**子ども減税**」）
- ③マイナポータルを通じて国の責任でポイント給付できる制度の導入（「**マイナポイント**」）
- ④景気に応じて税率を柔軟に変更できる制度へ見直すとともに単一税率化とインボイス廃止（「**景気連動型消費税**」）
- ⑤2万円/10aの直接支払い制度で農家の再生産可能な所得を補償（「**食料安保基礎支払い**」）

経済政策を**過度な円安やインフレを抑える政策に見直します**。その一環として、毎年数兆円の使い残しを計上している予算の無駄を見直すなど、**歳出改革を徹底**します。

■法の支配を重視する「世界に範たる日本」を目指す

「力による現状変更の試み」が拡大している今こそ、日本は、国際法のルールや「自由」「平等」「法の支配」といった価値を守る、世界の模範（お手本）となる**「世界に範たる国家」を目指す**べきです。特に、世界のミドルパワーの国々と連携し、国際秩序の維持をリードしていく責務があります。安倍政権の打ち出した外交指針「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」を発展的に継承し、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を維持・強化することを目指します。

「力による現状変更」には断固反対し、中国や北朝鮮のみならず、ウクライナに侵略したロシアに融和的な態度は取りません。ウクライナに対しては日本の防衛技術の輸出や協力を推進するだけでなく、同国の先進的なドローン技術・ノウハウをはじめとした、北朝鮮やロシアの**軍事的脅威に対応できる実践知を導入**するなど本格的な防衛技術協力を目指します。

■ガバナンスを強化し、より強く開かれた組織へ

国会や地方議会での政策実現力を最大化し、実績をもって有権者の期待に応えます。そのため次の3年間で、国民民主党が主導的に政権を担える政党に成長するための準備期間と位置づけ、**2027年統一地方選後に所属地方自治体議員を700人以上に増やし、2028年参議院議員選挙で、野党第一党の議席数確保を目指します**。その結果をもって以下の改革に取り組みます。

- ①自治体議員や候補者のサポート体制を強化するため、都道府県連の支援・相談体制を拡充。
次期国政選挙を目指す候補者（惜敗者を含む）のサポート体制も強化する
- ②次世代のリーダーを養成するために、若手を積極的に登用する
- ③コンプライアンス・危機管理の強化に向けて相談窓口の常設、研修システムを構築する
- ④「こくみんAI」導入と担当職員の増員により、地方組織を含む党内DX・AXを推進する
- ⑤民間有識者をメンバーとする「**政権構想チーム**」(仮)を設置し、執行部への監督・助言体制を強化するとともに、永田町感覚を超えた政策の創出を目指す

代表選挙推薦人名簿 候補者名 玉木 雄一郎 No. _____

	国会議員名	(自治体名) 自治体議員名
1	浅野 哲	(練馬区議会) 石黒 達男
2	礒崎 哲史	(島根県議会) 岩田 浩岳
3	伊藤 辰夫	(那覇市議会) 上里 直司
4	奥村 祥大	(新潟県議会) 上杉 知之
5	川合 孝典	(山形県議会) 梅津 庸成
6	後藤 斎	(山口県議会) 大内 一也
7	竹詰 仁	(福岡県議会) 大田 京子
8	田中 健	(北海道千歳市議会) 小川 陽平
9	田村 まみ	(愛媛県議会) 加藤 瑞穂
10	丹野 みどり	(京都府議会) 北岡 千はる
11	堂込 麻紀子	(横浜市議会) 小粥 康弘
12	庭田 幸恵	(茨城県議会) 齋藤 英彰
13	浜口 誠	(佐久市議会) 四登 夏希
14	浜野 喜史	(岡山県議会) 高橋 徹
15	原田 秀一	(三木町議会) 友保 陽子
16	平戸 航太	(長崎県議会) 中村 泰輔
17	深作 へスス	(守山市議会) 榊本 花菜恵

18	向山 好一	(広島市議会) 丸山 幸一郎
19	村岡 敏英	(愛知県議会) 森井 元志
20	山田 吉彦	(高槻市議会) 吉尾 卓也